

## 第8回フードビジネス研究会 (FABIO)のご案内

日 時 平成30年4月4日(水) 18時30分~20時30分  
会 場 コロンブス・ハウス(ふるさと往来クラブ) 東方通信社ビル2階  
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-14-4  
(東京メトロ千代田線小川町駅/都営新宿線淡路町駅 出口B7 徒歩5分)

定 員 10名(定員になり次第締め切ります)  
申 込 氏名、連絡先電話番号およびメールアドレスを記載の上、FAX(029-875-3402)にてお申し込みください。

参加費 5,000円(会員特典あります)  
(講師を交え飲食をともにしながら、2時間の楽しい実りある研究会です)

話 題 「オープンイノベーション時代の農工連携」

講 師 藤本 潔(井関農機顧問、元農林水産省消費・安全局長、関東農政局長)

農工連携といわれて久しいが、時代によって、その在り方は変わってきている。近年オープンイノベーションという言葉がもてはやされているようであるが、従来から食品産業界は小規模零細企業が多く、新規技術の自社開発が困難であったことから異業種とともに技術開発を行い業界全体でそれを享受してきた歴史がある。

一方で、農業に関しては、自然界を相手にするという性質や暗黙知を重宝し、お隣をライバル視するといった保守的な体質から工学との本格的な連携は進展してこなかったきらいがある。

近年、オランダの施設園芸を支えてきたワーヘニンゲン大学を中心とするフードバレーが、農業技術に関するイノベーションのあり方として注目を浴びている。我が国の農業技術のイノベーションを図るため、今、何をしようとしているのか。科学のための科学ではなく社会的経済的に価値のある研究を、顧客に合わせた研究プログラムを、企業や公的機関等と密に連携することを標榜するワーヘニンゲン UR から何を学ぶか。新技術の社会実装を進めていくために、オープンイノベーション時代の農工連携はどのようなスタイルを模索していくのかを、国の技術開発支援策を通して眺めてみたい。

